

MORIOKA ROTARY CLUB WEEKLY



第**19回例会**(2月19日) 令和3年2月26日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 川徳デパート内 例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111代 例 会 日 毎週金曜日12時30分~ https://www.morioka-rc.jp/

会 長 米内 正 幹 事 大平騰一 会 報 佐藤仁志 クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682 FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ Rotary Opens Opportunities:ロータリーは機会の扉を開く…ホルガー・クナーク 盛岡RC会長テーマ 奉仕の輪を拡げ困難を乗り越えよう 米内 正



創立記念例会卓話

創立記念日のこと

パスト会長 佐藤 義正 君

盛岡ロータリークラブは82年前の昭和14年2月 23日に国内34番目のクラブとして誕生しました。

産声を上げた場所は中央通りの岩手県公会堂です。

この2月23日というのは1905年の同じ日にロータリークラブが、シカゴに初めて誕生した日です。 それは明治38年のことで、生前会員であった私の 父は「ロータリーは私と同じ年だ」と言っていた ものでした。

盛岡クラブ設立は最初のシカゴから数えて34年後、東京クラブ設立から19年後にあたり、スポンサークラブは東京クラブと仙台クラブでした。

盛岡クラブ誕生に際しては当時、東京クラブの 会員であった、盛岡出身の鹿島組社長鹿島精一さ んと東北振興繊維副総裁金森太郎さんの熱心な薦 めがあったからだと聞いています。 設立時のチャーター・メンバーは15名の方で、 そのうちのお一人の村井源一さんは最近当クラブ を退会された村井研一郎さんのお父上です。

池野権治さんは以前に当クラブの会員であった 池野亮一さんのお父上で、川村英三さんは私が存 じ上げたころは川徳さんの総務専務さんをしてい ました。

佐々木休次郎さんは旧太田村にあった宰郷家と いう屋号の県内屈指の大地主のご当主でした。

休次郎さんは1942年、昭和17年からロータリー解散中の木曜会の会長を務めて、昭和19年2月に逝去されました。産米改良、山林事業などに多大の功績を残され慈善事業、公共事業には私材を投じられたという、立派な方でありました。

この伝説の方を知っているのは、今は私ぐらい かなと思いますが端正で立派なお顔の方で、お孫



さんの福田莊介さんと熊谷祐三さんはとても良く 似ておられます。

当時日本が統治していた外地のクラブを入れる と盛岡クラブの設立は34番目ではなく45番目に なってしまいます。

それは朝鮮の京城、満州の大連、同奉天、哈爾 濱、そして台湾の台北クラブが設立されているか らです。

いち早く外地の都市にクラブを設立していたことから、我が国の占領統治の政策をうかがい知る ことが出来ます。

こうして太平洋戦争開戦前夜、盛岡クラブは僅か15名の日本最小クラブとして誕生したのですが時代はすでに戦時下でした。

ロータリーそのものは敵性語であり、アメリカ 生まれのロータリーの盛岡クラブは翌15年秋、設 立後1年7か月で自主解散に追い込まれてしまい ました。

その後木曜会と改称して、例会を続けましたが 1945年に終戦を迎えることとなりました。

終戦から5年後の1950年、昭和25年に盛岡ロータリークラブは第2次正式認証を受けて再スタートを切りました。

この再発足時のチャーター・メンバーとして、 第44代南部家ご当主南部利英様が入会されました。

1960年、昭和35年には会長をなさいましたが、南部さんのご趣味はスポーツでスキー、水泳も良くされ、特にゴルフはプロ直伝の腕前で内丸の料亭「花芳久」に設けられた練習場では、会員に手ほどきをされていたとのことで、その後ゴルフは盛岡クラブ会員の名士の方々から市内、県内に広まっていったそうです。

国際ロータリーに復帰した当時の会員数は21名で、それから15年後の昭和40年には71名まで増強されました。

私はその当時が盛岡クラブに最も勢いのあった ころだと思っています。

佐藤武夫さんや村井源一さんが地区ガバナーに 選出され、又その方たちが中心となり多くのクラ ブを設立し、盛岡クラブがそのスポンサーになり ました。

昭和27年の釜石クラブをはじめとして青森、花巻、八戸、盛岡北、宮古、一関、大船渡、北上、水沢、花輪、岩谷堂、二戸、陸前高田、久慈の15クラブを短時間で誕生させたのです。

私の父は1960年、昭和35年に入会をさせていた だいています。

昭和30年代に入り、全国的に町村合併が盛んになり、昭和三十三年につなぎ温泉が所在する岩手郡御所村は隣の太田村と共に盛岡市に併合されました。この合併を機に、岩手銀行の安孫子副頭取さんが、父のところまで、おいでになり入会をお薦めいただいたと聞いています。

私が入会させていただいたのは1974年、昭和49年7月26日です。私の父の入会から14年後のことでした。

私が入会した時の1974~1975年の会長は荻野勤 治先生でした。現会員荻野忠良先生のお父上でい らっしゃいます。

私を紹介して下さったのはSAAをしておられた、(株)小田喜の川道喜六さんでした。この方は盛岡JCのOBの皆さんの大先輩で親分肌の方で、ガバナー訪問の際の夜の懇親会のざわつく酒席で遠くから「おい、ガバナー君」と呼び掛けていたことが、私の記憶に残っています。大変元気な方でした。

例会場は肴町にあった旧川徳本店のホールでした。

入会初日のことは良く覚えていますが歴代の商工会議所の会頭さんや岩手医大の三田先生、岩手銀行の雫石頭取さんなど、いつもお名前を聞く方が真ん中の席を陣取っておられて、その席に座って昼食をいただいた時は、本当に緊張をしてしまいました。

他に、佐藤重昭さんのおじいさんの、佐藤武夫パストガバナー、平井滋会員のお父上の平井冽会員、千葉隆史会員のお父上の千葉信先生もいらっしゃいました。村井源一パストガバナーは少し前に退会されていました。

私の入会当時は昭和生まれの会員は、少数派でした。

そこで昭和生まれの人たちの親睦会の「昭和会」 が出来ていて、年に何回かは夜の懇親会をやって いました。

会長は当時岩手県医師会長をなさっていた石川 育成さんでしたが、とても楽しい会でした。その うちに昭和生まれの会員も次第に増えてきました ので、村井研一郎さんのご意向を受けて、私が石 川会長にお話しをして、みんなで相談をして昭和 会を解散することになりました。

私は入会してすぐの年に親睦委員、翌年は副幹 事をやりました。

入会3年後の1977~78年は平井冽会長の下で幹事をやらせていただきました。

1991年にはあさ開さんの村井良一郎さんからバトンを受けて会長を勤めさせていただきました。

その時の副会長は岩手放送の河野逸平さん、次期会長は山口徳次郎さん、幹事は鍵屋の村井栄輔 さんになっていただきました。

当時は盛岡クラブがスポンサーとなって作られた県内の多くの若々しいクラブが会員を増強し、それぞれ活発に活動していた時代です。

例えば盛岡北クラブが何年もの間出席率100% を達成したとか、各クラブで財団や米山奨学会へ の寄付金が多く集まっていました。

更には県内のいくつかのクラブからガバナーが 輩出されました。

新興クラブ出身のガバナー訪問の折に当クラブ の出席率の低さを何度か指摘されたこともありま す。

そんなこともあり1997年~1998年度の若松会長から、出席委員長になってほしいとの要請がありました。「しっかりやってもいいか。」と言いましたら「いいから頼む」と言われ引き受けました。結局その年は93.09%と飛躍的に伸びてしまいました。そしたら次年度の会長予定者の澤野先生からも早々と要請があり、結局二年続けて、出席委員長を引き受け澤野年度でも95.24%と更に伸ばすことが出来ました。

どうやったのかと聞かれても、私は特別のこと はやりませんでした。会員から嫌われたり恨まれ たこともなかったような気がします。 うまくいった原因を一つだけ言えば、それは出 席委員会の仲間が絶えず寄り集まって、ワイワイ ガヤガヤと騒いでいたことです。

飲み会とチームワークの勝利だと思っています。

創立60周年記念誌「ビッグ・フライデー」に、1989年~1998年、多彩に充実の10年とあり、南部ガバナーのリーダーシップが遺憾なく発揮された結果で、例会出席はその後2年を経て90%台となった。此れまでに無いことで、むしろ会員のほとんどが予想もしなかったことかもしれない。

「やれば出来る」出席委員長を務めた佐藤義正 会員の、この言葉は重い。と書いてありますが、 実際には私はそのようには言っていません。

山口編纂委員長の私に対する激励と受け止めて います。

ガバナーとして南部家第45代当主、南部利昭会 員が立派にお勤めになり、それからあまり間を置 かずに当クラブは小川ガバナーを輩出し、一層の 盛り上がりを見せ2520地区の中心的なクラブの一 つとして発展を続けてきました。

当クラブの出席率の現状を申し上げますと、会員の皆さんには頑張っていただいていますが、あと5%程度の上乗せをしていただければいいと考えています。

例会に出席することの第一の意味は、自分の限 られた職業生活の中では得られない、多くの違っ た業種の優れた指導者たちと知り合いになること です。

そして、そこからインスピレーションを受けて 自分自身が成長することにあります。更に全ての 会員が例会に出席することによって、他のロータ リアンにそれを与えなければなりません。

ロータリーの会合で得たものを持ち帰って、自 身の業界に与える。

一業一人の会員制度のロータリーとしては自分の職業を通して社会に奉仕するということを、とりわけ中心課題に置いているという意味では出席をすることにこそ意味があると言わざるを得ません。

私は例会への出席や、地区大会へ参加した機会

に多くの人と出会うという幸運に恵まれました。

例えば1995~96年度の南部利昭ガバナーの時の地区大会の際に、私は妻と二人でRI会長代理のエイド(付き人)を勤めました。この代理の方は札幌西クラブの竹山涼ーパストガバナーでした。私どもは任務を無事勤め終えて、花巻空港でお別れする時に竹山さんご自身が翻訳されたポール・ハリスの「わがロータリーへの道」という著書をいただき、ポール・ハリスのお人柄が良く分かるようになりました。

またこれより先盛岡北の田口良一ガバナーの時の、地区大会の時の会長代理としておいでになった札幌クラブの伊藤義郎パストガバナーのエイドを勤めました。

この方は全日本スキー連盟の会長さんで、ご縁 も暫く続きました。

1993年の2月に、世界アルペン・スキー大会が 零石で開催されましたが、私はその大会の組織委 員会の委員を命ぜられ、直前大会の開催地ザール バッハに視察団の団長として岩手県や雫石町の関 係者と一緒に行きました。

その開会式にVIP席に通され、大会コンパニ

オンからひざ掛けなどをかけてもらい、気分が高 揚していた時にふと、横を見たらトニー・ザイラー や猪谷千春さんたちと一緒に伊藤パストガバナー が国際スキー連盟副会長の立場でお座りになって いました。

丁度その年はモーツアルト没後300年の年にあたり、一年間、ザルツブルクのどこかで365日、毎日、モーツアルトの演奏会をやっており、その入場券を手に入れることとか、いろいろとお世話になってしまいました。ロータリーのありがたみをつくづく感じたときでした。

私はロータリーとは、片肘を張らないで多様な 業種の人と名刺を交換できる素晴らしい会だと 思っています。

会員はいろんなクラブに出席して、素晴らしい 人と出会う権利を有しています。この権利をもっ ともっと行使するべきだと思います。会合がお昼 時になっているのも、とても便利です。交流を盛 んにしてロータリアンならではのメリットを享受 したいと考えます。

ご清聴をありがとうございました。



第19回例会 令和3年2月19日金

場所:ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

12時30分 開会点鐘

- ・司 会 米内正会長
- ・ロータリーソング (それでこそロータリー)

- ·会長報告 米内正会長
- · 入会祝 高橋一仁君
- ・誕生祝 近藤一英君
- ・結婚祝 三原康展・吉田明弘君
- ・幹事報告 大平騰一幹事
- ・委員会報告

[= = = = BOX]

◆米内正君…佐藤義正さん。創立記念 例会卓話、ありがとうございます。 ◆飯塚肇君…テニス全豪オープンの大坂 なおみ。第4試合は元世界ランキング 1位のムルグッサに苦戦するもフル セットに持込んで大逆転勝利。第5試 合はくせ者スーウェイのわざを抑え込 み、ストレート勝ち。準決勝は、幼い 頃からのあこがれの女王セレナとの試 合をストレートで破り、決勝進出。2 年ぶり二度目の制覇を期待してニコニ コします。



プログラムのお知らせ

· 2月26日金 新入会員卓話 和田俊文会員「JR東日本の30年と私の仕事」

・3月5日金 ゲスト卓話 阿部智幸様 (フードバンク岩手 事務局長)

12日金 ゲスト卓話 松田文登様(㈱ヘラルボニー 副社長)

19日金) ゲスト卓話 大嶋貴志様 (NHK盛岡放送局 アナウンサー)

26日金) 環境保全ポスター表彰式

· 4月2日 会員卓話 西島光茂会員

●本号編集担当/土屋 克之